

# 美術館の展示会

## 2019 年度

コレクションギャラリー1

### 金城安太郎展

会期：7月13日(土)>>>10月13日(日)



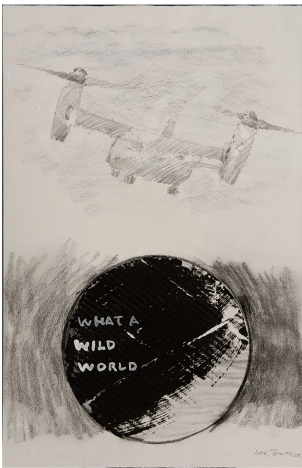
金城安太郎《伊野波節》1978年

新聞連載小説や雑誌の表紙絵などの挿絵画家としても知られている金城安太郎(きんじょう・やすたろう 1911-1999)。沖縄における数少ない日本画家としても活躍しました。本展では、金城の日本画作品を中心に紹介します。

コレクションギャラリー1

### 真喜志勉 ドローイング展

会期：10月19日(土)>>>2020年2月9日(日)



真喜志勉《WHAT A WILD WORLD 07》2014年

真喜志勉(まきし・つとむ 1941-2015)那覇市生まれ。多摩美術大学洋画科卒業後、ニューヨークで当時の現代美術に触れます。以後、様々な技法・素材を使用した作品を残しました。本展では、ドローイングを中心に紹介します。

コレクションギャラリー2

### 沖縄を描いた画家 1930-1950's

会期：7月13日(土)>>>10月13日(日)



鳥海青児《修理の家(沖縄)》1959年頃

1930年代の日本では、沖縄への観光が流行し、多くの日本人画家が沖縄を描きました。本展では、藤田嗣治、北川民次、山川清、川端彌之助、伊藤清永、斧山萬次郎、鳥海青児などの県外画家の作品と、宮平清一、読谷山朝典、宮城与徳、糸数晴甫、親泊英繁など、同時代の沖縄の画家の作品を比較し、表現の違いについて検証します。

コレクションギャラリー2

### 作家の視点、作品の視点

会期：10月19日(土)>>>2020年2月9日(日)



内間安理《Forest Byobu(Early Morning Sun)》1980年

作品を前にしたとき、私たちは「どのように作品を観る」か、ということを考えますが、作家もまた独自の視点でものを観ています。本展では、当館がコレクションしている現代の作家を紹介し、作品がもたらす視点について検証します。

企画ギャラリー1・2

### 上條文穂と波多野泉展

会期：9月20日(金)>>>11月4日(月)



上條文穂《漆喰の扉より》1997年



波多野泉《鼓(追想)》2007年

現代彫刻家として国内外で高く評価されてきた上條文穂(かみじょう・ふみほ 1953-)と波多野泉(はたの・いずみ 1957-)。手法や素材を異にする二人の活躍は1980年代以降、沖縄の彫刻界に一石を投じました。本展では、二人の魅力を紹介し、

企画ギャラリー1・2

### 作家と現在

会期：12月24日(火)>>>2020年2月2日(日)



本展では、沖縄で活動する同時代の作家および作品を取り上げます。それぞれの現場で活躍する作家の制作に注目し、いまこの場所で起きている出来事についてどのような視点が新たに浮かびあがるのかを、作品とともに紹介します。